



令和8年
6月

学校だより

「自立と感謝」

～心ゆたかに かしく たくましく～

さいたま市立大砂土東小学校

048(684)8003

令和 8 年 5 月 29 日発行

この感情が危険なんだ

校長 石川 顕一

梅雨入りのニュースが気になる時期となりました。うっとうしい雨降りやじめじめとする高い湿度に気が滅入りそうになります。気分転換をうまく図って晴れやかに過ごしたいものです。

さて、デンマークのアンデルセンが作った「みにくいアヒルの子」をご存知でしょうか。

あるアヒルの群れで卵が孵ります。しかし1羽のひな鳥は体が黒く、周りからみにくいアヒルといじめられます。いじめに耐えきれなくなったひな鳥は家族の元から逃げ出します。他の群れでもみにくいといじめられながら、一冬を過ごします。

春、みにくいアヒルの子は、水面に映った自分の姿に驚きます。みにくいアヒルは、立派な白鳥に変わっていました。白鳥の群れに温かく迎え入れられ、幸せに暮らしました。

この話は、今から 170 年以上前に作られた童話です。鳥のことではありますが、いじめのことを取り上げています。現代でも昔でも、日本でも海外でも、いじめは解決が難しい社会的問題として存在し続けてきました。

「集団から人を排除する行動（いじめ）は、人間という生物が生存率を高めるために、進化の過程で身に付けた機能である」ということが近年の研究で明らかになってきました。人間は集団をつくと、自分と少し様子の異なる人を見つけ、「あの人はズルをするかもしれない。だから仲間から外そう。懲らしめてやろう。」という感情が生まれるそうです。まさにいじめです。いじめを撲滅するには、「いじめはしてはいけません」と道徳的に指導助言することはもちろんのこと、内側から湧き上がってくるこの危険な感情を客観的にとらえられる力を育てることも重要であると考えています。

私たち大人は、精神的に未熟な子どもが「あの子を懲らしめてやりたい」と思った時に「この感情が危険なんだ。この感情がいじめにつながるんだ」と気づけるよう、日頃から働きかけをしなければなりません。学校の教員だけでなく、家庭や地域の方々だけでもなく、全ての大人が力を合わせて取り組まなければ、いじめを撲滅することは難しいことでしょう。現在の日本では、国が法律（いじめ防止対策推進法）を制定していじめ防止に取り組んでいます。本校も「さいたま市立大砂土東小学校いじめ防止基本方針（HP掲載）」を策定しています。

さいたま市では6月をいじめ撲滅月間として位置付け、保護者や地域の皆様方とともに、いじめの未然防止に、また、いじめが起きてしまっても大きくならないよう早期発見に努めてまいります。



▲ 歯科健診の様子

大砂土東小は、創立 95 周年を迎えました。

次は、昨年度もお伝えしたものです。繰り返しのお知らせです。

平成 22 年、いじめを原因とする痛ましい事件が全国で起きました。そのことを受けて、教育長、PTA 協議会長、小学校、中学校、高等学校の校長会長が連名で、緊急アピールを示しました。【一部抜粋】

ぜひご家族でご一読ください。

「とても大切なあなたたちへ」

- 1 自分と同じ人間はいません。一人ひとりそれぞれ違っています。だから、好きな人もいれば、嫌いな人もいます。でも、嫌いだからといって、その人に嫌がらせをしたり、いじめたりすることは、人としてやってはいけないことです。恥ずかしいことです。まして、人をさそってみんなでいじめるなどは、とてもひきょうな行いです。
- 2 自分がいじめられていると思っている人は、そんなひきょうな行いに負けないでください。一人でなやんだり、かかえこんだりしないで、必ず周りの大人に相談しましょう。
- 3 人には、やってよいことと悪いことを判断する力があります。いじめを見たら、勇気をもってその事実を周りの大人に知らせてください。自分の名前が知られなくなかったら、そのことも伝えておきましょう。
- 4 人生には、誰にでもつらいことや苦しいことがあります。また、楽しいことやあなたがまだ知らない喜びもたくさんあります。

苦しいときには、誰でもいいからすぐに相談しましょう。電話でも、どんな方法でもかまいません。思っていることを口に出すと楽になります。苦しみは分かち合えるものです。